

おるすばん 110ばん

槻野 けい

絵 林 明子



おるすばん 110ばん

槻野けい 林 明子 絵



913

槻野けい

おるすばん 110ばん

講談社 1975

102p 22cm (児童文学創作シリーズ)

つきのけい

おるすばん 110ばん

定価 800円

昭和50年 2月20日 第1刷発行

昭和54年 5月30日 第8刷発行

作 者 槻野^{つきの}けい

発行者 野間省一

発行所 株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 郵便番号 112

電話 東京03(945)1111 (大代表)

振替東京 8-3930

製 版 株式会社まゆら美研

印刷所 豊国オフセット株式会社

製本所 藤沢製本株式会社

© 槻野けい 1975 Printed in Japan

落丁本・乱丁本はおとりかえいたします。(児一)

8093-189128-2253 (1)

ユリのおとうさんは、こうつうじこでしに
ました。

おかあさんは、おつとめ。

ユリも、おてつだいしなくちや。

おせんたくしたり、おきやくさまがきたり、
てんでこまい。

おや！ どろぼうがやってきました。

ユリのおすばんはS^{エス}O^{オー}S^{エス}、一一〇ばん。き
けんしんごう、赤^{あか}ばかり。

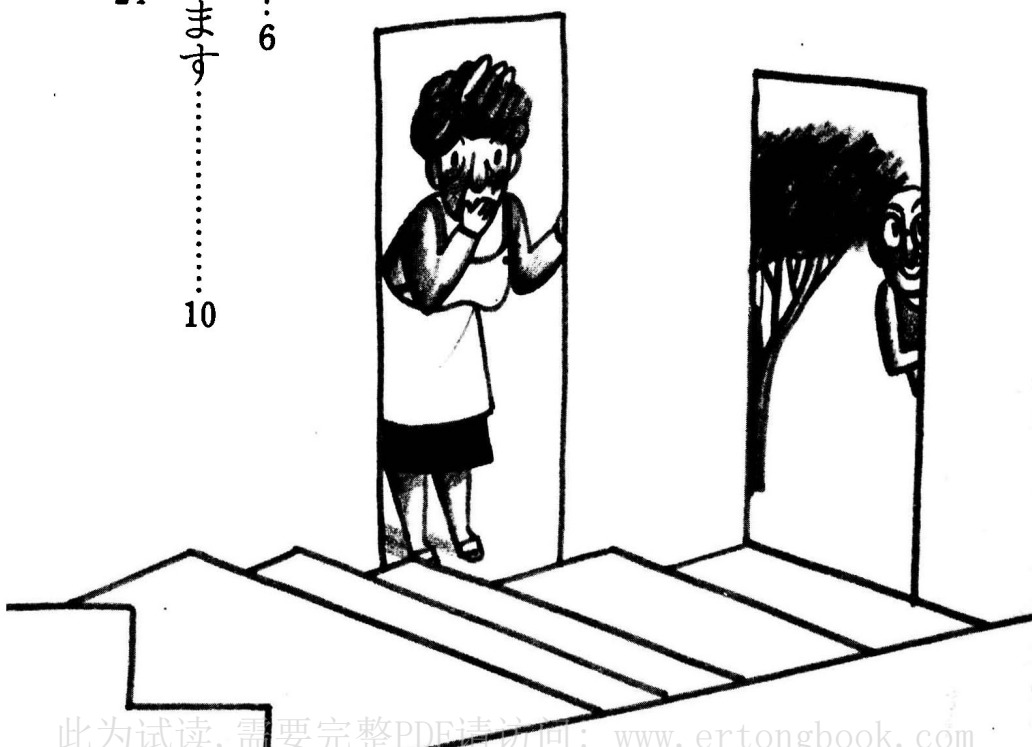
もくじ

ユリのうちは、三人..... 6

ユリのおすばんが はじまります..... 10

ボーイフレンドと..... 24

雨の日..... 48





ユリと	どろぼう		60
ユリの	こしかけ		87
解説	説		99



おるすばん
一一〇ばん



ユリのうちは、三人^{にん}



「また、くるでな。」

けさ、おじいちゃんが長野^{ながの}へかえってしまうと、きゆうにうちの中^{なか}がひろくなり、しいんとしてしまいました。

おかあさんが、ユリのあたまをなでながらいます。

「ユリちゃん、とうとうふたりだけになってしまったね。」

「うん。」

ぶつだんのおとうさんのしゃしんをみていたユリは、おかあさんの

むねにかおをうずめました。

ユリのおとうさんは、かいしゃのしごとで大阪おおさかにしゅっちょうちゅう、こうつうじこにあい、くるまにひかれてしんでしまったのです。ユリがしているのは、げんきなすがたのおとうさんだけです。

「ちがうよ。」

ユリは、おかつばあたまをぱつとあげ、大きな目めでおかあさんを見あげていました。

「ふたりじゃないもん、三人にんだよ。」

*

「おつとめしたいけど、どうかしら？」

おかあさんが、ユリにそうだんします。

「それとも、東京とうきょうをはなれて長野ながののおじいちゃんとかへいく？」

ユリは、ひなた小学校しょうがっこうの一年生ねんせいです。

ともだちと、はなれたくないし……。

いままですんでいたさくらだんちをはなれるのも、いやだし……。

おかあさんがおつとめすることに、さんせいしました。

「ユリちゃん、ほんとうにだいじょうぶかな？」

あしたからおつとめするおかあさんは、しんぱいそうにくびをかしげます。

一月ひとつきくらいたつと、長野ながののおじいちゃんがきてくださることになっていきます。それまで、ユリひとりのるすばんです。

いままで、おかあさんがるすのときは、かならずおとうさんがうちにいました。

もう、おとうさんは、しゃしんの中^{なか}だけにいて、できません。

ユリは、ちよっとしんぱいです。でも、「おとうさんのぶんまで、がんばらなくちゃ。」と、はりきっているおかあさん。

「だいじょうぶだもん。」

ユリの口^{くち}から大^{おお}きなこえがとびだしました。

ユリちゃん！ おじいちゃんがきてくたださるまでのしんぼうだから、がんばりましょうね。



ユリのもるすばんがはじまります



キンコンカンコン、キンコン……。

学校^{がっこう}からかえってきたユリは、げんかんのチャイムをおしました。
キンコンカンコン、キンコン……。

（あつ、いけない。おかあさんは、かいしや。）

「よいしょ。」

おまもりといっしょにぬいつけてある、かぎのひもをひっぱり、せ
のびしてかぎをあけました。

（やつと、戸があいた。）

ふわあと、あったかいへやの中なかのにおい。

「おかあさん、ただいまあ。」

「……………」

「おかあさあん。」

「……………」

ユリは、るすだとわかっていても、よびます。

「おかあさあん。」

「……………」

（おかあさん、いないんだ。）

ふつんといとがきれたように、ユリはだまってうちの中なかへかけこみました。

ユリは、しゃしんのおとうさんにむかっています。

「ただいまあ。」

「……………」

（なにか、学校^{がっこう}へわすれものしてきたかな。）

くびをかしげながら、かばんをさかさにしてふります。

本^{ほん}も、ノートも、先生^{せんせい}のおてがみも、みんなはいています。

おかあさんがうちにいるときは、ユリは、いつもまっさきにおてがみをだしてみせました。

おやつをたべながら、学校^{がっこう}であつたことをはなします。

おしごとするおかあさんのあとを、ついてまわりながらはなしま



す。

（あつ、そうだ。わすれものは、おかあさんだったんだ。）

「おとうさんのばか！ しんじやつて。」

ユリは、なきべそをかきながら、だれもいないうちの中なかをみまわしました。

きゆうに、こわくなったユリは、ベランダへとびだしていきます。

ドンドン、ドンドン。

おとなりとのさかいのいたをたたきながら、

「おばちゃん！」

大きなこえでよびます。

「ユリちゃん、かえったのよ。ユリちゃん、かえったのよ。」

「おかえりなさあい。」